何が死刑制度に対する市民の認識を規定しているのか

○山崎優子¹・石崎千景²

(¹北海道大学・²九州国際大学)

キーワード：死刑制度・裁判員・因子分析

Factors that determine citizens' views on capital punishment

Yuko YAMASAKI¹, Chikage ISHIZAKI²

(¹Hokkaido University, ²Kyusyu International University)

Key Words: Death penalty, Lay judge, factor analysis

目 的

本研究では、市民（大学生）の死刑制度に対する認識および、これらの認識に影響を及ぼす要因について明らかにし、両関係について検討する。

方 法

協力者 大学生 203 人 ($M=20.8$ 歳, $SD=2.3$ 歳)。

材料 質問紙 (A4 用紙 10 ページ)。具体的内容は下記のとおりであった。

- 死刑制度の必要性 (9 件法)
- 内閣府調査 (2009) で示された死刑賛否の理由 13 項目と、それ以外に予備調査で示された死刑賛否の理由 4 項目の計 17 項目それぞれに対する納得の程度 (9 件法)
- 個人特性 (例えば、権威主義傾向、死生観、公正世界観)、犯罪報道を得る機会 (例えば、ワイドショー) (9 件法)、ここ数年の犯罪動向 (陰湿さ、増減) (9 件法)

手続き 調査参加に同意した協力者は、配布された質問紙に個別に回答した。所要時間はおよそ 40 分であった。

結 果

分析結果を下記に示す。なお、分析にあたっては、回答に抜けのあった 17 データを除外した。

(1) 死刑制度の必要性

「必要」73% (135 人)、「どちらともいえない」8% (14 人)、「必要でない」20% (37 人) であった。

(2) 死刑賛否の認識に影響を及ぼす因子

死刑賛否の理由 17 項目に対する納得の程度について、因子分析を行った結果 (主因子法、プロマックス回転、最終的に 3 つの因子が抽出された。表 1 に、最終的な因子パターンを示した (数値は因子負荷量)。回転前の説明率は 58.66%。第 1 因子と第 2 因子の相関は -0.651、第 1 因子と第 3 因子の相関は 0.545、第 2 因子と第 3 因子の相関は 0.715。第 1 因子～第 3 因子の α 係数はそれぞれ、0.880、0.883、0.715。第 1 因子、第 2 因子、第 3 因子はそれぞれ、「博愛主義」因子、「厳罰主義」因子、「死刑制度の機能不全」因子と命名した。

(3) 死刑制度の必要性の判断と上記因子との関係

各因子の下位尺度得点 (各質問項目に対する回答 (因子負荷量がマイナスの項目は「10-回答値」) の平均値) について、「因子」と「死刑制度の必要性の判断」を要因とする 2 要因の分散分析を行った。その結果、交互作用が有意で ($F(4, 366)=21.90$, $p<.001$) で、単純主効果の検定ではすべての因子における「判断」の効果は有意であった ($p<.01$)。下位検定 (ライアンズ法) の結果、博愛主義因子は、「必要でない」、「どちらでもない」、「必要」の順に大きく、厳罰主義因子は「必要」、「どちらともいえない」、「必要でない」の順に大きかった。死刑制度の機能不全因子は「必要でない」方が「必要」よりも有意に大きかった ($p<.05$)。

図 1 に、死刑制度の必要性の判断毎に各因子下位尺度得点を示した。

表 1. 死刑賛否の認識についての因子分析結果

死刑賛否の理由	賛否	因子		
		第 1	第 2	第 3
多くの国が死刑を廃止している	否	.829	.106	.054
加害者にも家族がいる	否	.794	.159	.012
人を殺すことは人道に反し野蛮	否	.794	-.093	-.042
漠然と死刑に嫌悪感を感じる	否	.721	.074	.047
国が人を殺すことは許されない	否	.639	-.242	-.042
終身刑で十分	否	.480	-.160	.166
生かして罪の償いをさせるべき	否	.400	-.135	.265
終身刑では施設が不足しコストもかかる	賛	-.379	.344	.171
死刑を廃止すれば凶悪な犯罪が増える	賛	.330	.997	-.049
凶悪犯が再犯する可能性がある	賛	-.223	.660	.147
死刑を廃止すれば被害者やその家族の気持ちがおさまらない	賛	-.061	.656	-.035
凶悪な犯罪は命を以て償うべき	賛	-.278	.573	.041
死刑を望んで犯罪する者がいる	否	-.113	.115	.720
生きて刑罰を受ける方が残酷	否	.064	-.138	.544
死刑を執行側や判断側の負担	否	.147	.007	.536
死刑制度に犯罪抑止力がない	否	-.028	-.344	.446
冤罪があれば取返しがつかない	否	.230	.082	.385

図 1. 死刑制度の必要性の判断毎に各因子の下位尺度得点

考 察

死刑賛否の認識に影響を及ぼす 3 つの因子の存在が示され、死刑制度の必要性の判断によって、各因の影響の強さが異なった。なお、発表当日は、各因子と個人特性、犯罪報道の接触等との関係を明らかにするために行った共分散構造分析の結果も併せて示す。

*本研究は科研費 (23530836) の助成を受けたものです。